

山桜の里 戸赤

自主防災会を立ち上げた
29年度区総会(3・19)



自然体験あそびの学校「やまざくら」利用 年度別集計

年度	会議		宿泊		イベント		見学		その他(体験)		計		写真館	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
18	4	49	25	191	4	341	8	196	20	238	61	1,015	520	520
19	2	37	72	181	2	81	2	47	4	24	82	375	459	979
20	3	50	37	134	2	163	6	143	2	26	50	627	290	1,274
21	2	38	31	165	1	45	2	18	0	26	36	229	285	1,564
22	3	65	17	182	0	0	1	19	3	29	24	350	215	1,779
23	0	0	16	198	0	0	0	0	0	29	16	155	172	1,851
24	1	34	6	204	0	0	0	0	3	82	10	154	74	1,993
25	0	0	11	215	0	0	0	0	9	41	29	412	100	2,093
26	0	0	5	220	0	0	0	0	15	56	20	333	175	2,269
27	0	0	19	239	0	0	0	0	9	65	28	347	111	2,379
28	0	0	17	256	1	10	0	0	8	73	26	411	45	2,424
計	15	273	220	1,315	9	630	19	427	56	1,031	347	3,952	45	2,424

戸赤水車式木工工房実績年次表

年度	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		計											
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額												
18	4	7,800	9	15,900	18	24,300	8	29,400	16	33,000	10	19,700	25	17,600	5	4,800	22	45,900	17	35,800	7	9,000	9	4,300	12	19,700	12	13,000	0	0	129	151,900	40,300	42,485	67,815	196,600
19	30	29,600	9	10,500	18	12,800	12	25,200	11	7,900	21	11,900	26	23,700	14	18,500	13	11,200	13	9,600	11	9,800	13	7,700	36,300	228	371,500	64,500	130,700	19,810	284,650					
20	10	6,500	7	13,000	16	28,500	18	18,900	22	23,300	9	7,800	25	26,000	13	13,700	7	7,000	8	72,500	8	3,100	8	7,300	2,973	182	241,373	3,873	182,400	94,980	241,573					
21	6	5,300	5	15,000	13	24,300	12	8,500	4	5,500	4	7,500	15	7,600	11	28,500	2	43,000	5	5,900	1	1,000	3	2,300	8,198	81	163,288	8,486	89,915	94,980	163,288					
22	4	2,600	4	7,000	5	3,900	6	5,000	4	36,999	3	3,900	10	10,000	7	16,000	6	6,000	1	1,900	1	4,900	1	1,000	3,098	55	162,384	3,386	97,140	42,660	142,598					
23	3	3,000	3	4,300	4	4,900	14	14,600	8	7,300	19	8,800	3	3,000	12	110,200	8	8,800	3	3,000	4	4,000	15,211	167,550	15,254	129,075	43,625	187,554								
24	3	3,000	14	15,000	5	6,000	5	6,000	21	26,000	19	48,900	11	11,500	9	14,900	6	7,000	10	15,000	3	6,300	7	16,000	115	115,116	107	261,100	3,400	214,655	43,033	261,100				
25	16	18,900	23	24,000	12	14,900	7	11,000	31	18,600	25	23,800	21	29,100	17	15,800	23	32,000	18	15,000	12	52,400	12	52,400	5	6,300	115	231,155	26,225	223,295	30,095	290,125				
26	17	18,900	15	17,000	13	28,999	14	24,300	9	31,300	12	56,900	8	29,000	7	13,800	5	15,000	11	17,000	1	12,900	5	6,300	7	7,300	12,228	115	231,155	26,225	223,295	30,095	290,125			
27	17	17,800	19	18,000	8	27,389	12	31,000	9	15,000	13	12,800	7	18,000	6	9,300	16	16,800	15	13,400	5	6,800	7	7,300	12,228	115	231,155	26,225	223,295	30,095	290,125					

区費一千元を値上げし消防費一千元値下げ、農家割特別会計の現金は生産組合通帳に組み入れ帳簿で個別経理、戸赤自主防災会の設立など決めた二十九年度区総会は三月十九日行われました。山桜学校の指定管理料は要望通り確保される見込みであることも報告されました。

東電から合意書が届いたら
請求明細の提示を
「登記名義人の相続人であること」の確認、また請求もれの地番がある「ではないか」など電力ホールから
2. 24請求書を発送した個人のレターパック

デイングスからの電話や封書での問い合わせに対応している原発事故賠償手続きは、分収林の確認でもうしばらく時間を要する見込みです。賠償額が決まれば請求者あてに金額算出明細書と合意書が送付され、合意書を返送すると指定口座に入金されます。各種謄抄本など諸経費算出確定のため、各人の金額算出明細の集計が必要となりますので請求明細が届いたらそれを事務局に提示していただくこととなります。



「登記名義人の相続人であること」の確認、また請求もれの地番がある「ではないか」など電力ホールから

2. 24請求書を発送した個人のレターパック

【木地の学習No.73】米沢領の木地師達は、寛政期頃に藩より木地挽差配を任せられた小屋村（現・飯豊町）の小田切清左衛門の支配下にはいっていき、木地材の枯渇と共に、他所へ転出したり、農民化するものが出てきた。幕末になると、米沢藩では木地の不足を補うため会津領内の木地師招聘に乗り出している。安政六年米沢藩蔵物掛より「瀧原（田島町）木地師仙之助を招きたい」という手紙が、下郷町戸赤小屋小棟俊幸家に残されている。福島側の大滝ひかわは、木地師の一大拠点であったと思われる。地元には木地に関する伝承がないため、小屋の場所を特定することはできないが、古文書には「大笹生入大滝米川」とあることから国道13号沿いの飯坂中野の大滝辺りを想定している。この辺りも「小屋」地名の多いところである。栗子トンネルの近くには石小屋、ニツ小屋、大笹生大平には沼小屋、さらに黒森山の南東には中飲ノ小屋がある。この外、『大日本地名辞典』（角川書店）の大笹生村の項に、原小屋・雪小屋・板小屋・柴小屋がある。大滝ひかわ小屋の上限年代ははっきりしないが、近世初期には存在していた。山形大学文書には「元和六（1620）年庚申、大笹生入大滝ひかは廿二軒、夫取百廿八人、三月飯米16十六石七斗八升被成下、大滝権兵衛、平左工門、金十郎、与八郎、勘三郎板谷村ふか沢へ越」とある。（会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より）（続く）



輪切り状の丸いものもある

「東北さくら旅」

「東北さくら旅」

れきのひとコマ

今年の見ごろは、いつかな

「原風景を守って
いくから来てねっ
ていちゃったから
ね」(夢見るタミ
子さん)左

27 28 29 30 1 2 3 4 5



新しい橋への道が積み上げられ間もなく一区切りというところか



「赤い桜が咲いたら種をまく、白い桜が咲いたら山菜をとる」桜が教えてくれる



(ストーリー性のある村づくりのために[No.41] 最近の発掘調査によって山間部における平安期の容相が明らかになりつつあるが、土師器は長胴甕で口縁部に特徴があり、類例は町内の道州遺跡や南会津町折橋D遺跡の発掘調査で出土しており、富田・大明神の各遺跡でも出土している。これらは九世紀の所産と思われ、会津平野部での類例は知られておらず、在地的な土器と考えられる。これに対して本町の諸遺跡で出土している須恵器のほとんどが会津若松の大戸窯の製品と考えられ、会津平野部との交流が窺われる。結び 以上周辺の町村の状況をふまえて、下郷町の縄文時代・弥生時代について触れてみたが、町内の遺跡に関する情報はここ十年間の発掘調査で増加したものの、縄文早期から弥生時代までの全般を網羅するものではなく、時代による偏りがみられる。これが人々の移動によるものか、それともいまだ発見されていないだけなのかが今後の研究課題であろう。下郷町では豊成地区において経営体育成基盤事業に伴い、平成十八年度より試掘調査・発掘調査が実施され、現在も継続されている。下平遺跡からは縄文中期末葉の複式炉を伴う住居跡と土杭・遺構・配石遺構が検出され、明神遺跡からは縄文前期の堅穴住居跡や土杭・小穴・溝跡・埋設土器が検出されている。(…)

(「下郷町史—第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典) (続く) 悉